ひとはく研究員だより

中、大型のカタツムリ 17種程度 兵庫に分布

鈴木 武 研究員

梅雨の時期には、アジサイにカタツムリというのがよく取り上げられる風景です。日本産陸生貝類は800種ほどとされていますが、ナメクジや1ミリ程度の小さい種類を含めてです。兵庫県では、殻の直径が2チセン以上の中型―大型のカタツムリは17種程度が分布しています。この中で、今回は、ハリママイマイとコハクオナジマイマイの2種を取り上げます。

ハリママイマイは殻の幅が3チセン程度で、普通にカタツムリに見える大きさです。殻は横から見るととがった三角形状で、殻の表面はざらついているのが特徴です。色はうすい黄色から濃茶色までさまざまです。名前の通り「播磨」を中心に分布しており、県内のみに産する固有種で、明石公園などではごく普通に見かけられます。淡路北部や豊岡市南部にはわずかに生育しています。

ハリママイマイ

六甲山地周辺でみると、妙なところで分布が切れます。南側では神戸市東灘区の住吉川周辺、北部は北区箕谷までが見つかっている範囲です。有馬温泉周辺や三田市などでは見つかったことがありません。雨上がりには壁や木に登ることが多い種です。形も特徴的なので、マクロ撮影の写真でも判定できます。

コハクオナジマイマイ

コハクオナジマイマイは殻の直径が1・5チセン程度、透明感のある白い殻で、先端部分は緑がかったクリーム色をしています。寿命は1年しかなく秋に生まれた卵がそのまま、あるいは稚貝となって、越冬していると思われます。

九州などは自生しているのですが、兵庫県では最近に入ってきた国内外来種です。県内でもあちこちで見つかり、しかも、何年も続けて見つかる場所も但馬や丹波、阪神など複数あり、定着していると言っていいでしょう。野菜などを食べるとも言われていますが、兵庫県や鳥取県の事例では、田んぼや川のわきの雑草、特にクズやカラムシなどで見つかっています。小型で見つかりにくいこともあって、分布の広がりが定かではありません。この種類も写真で十分に判定できます。ともに見かけられたらご一報ください。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。